

1

①

内気

②

下り

③

公立

④

原作

⑤

地理

2

1

A

ウ

B

ア

2

ア

神様

イ

仏様

ウ

鳥居

エ

山門

3

神

ン

ん

4

た

い

て

い

(※3 完答)

5

ア

2

イ

1

3

1

A

ウ

B

ア

2

ち

よ

3

②

エ

③

ウ

4

ウ

5

あ

い

て

の

か

6

黒

配点

1

各2点×5=10点

2~3

各5点×18=90点

<計>100点

① 小学校二年生までに学習した漢字から出題している。② 「内気」は「気が弱く、人前では思うように物事ができないことやそのような性格」のことである。③ 「公」の「ム」の部分ぶんを数字の「4」のようにしないこと。④ 「原」の「白」の部分はくを「日」としたり、「小」の部分せうを「水」としたりしないように気をつけること。⑤ 「地理」は小学三年生にはなじみのないことばなのでむずかしかったかもしれないが、すでに学習した漢字でできていることばは意味や使い方を確認していくようにしよう。

②

1 A (A) の前後でお寺がどのような場所であるかをならべて説明していることから考える。

B (B) の前で仏教が日本で生まれたものではないと書いているが、後では日本人の生活に合わせて形をかえて広まっていたと書いていることから考える。

2 ア 本文三行目に「神社は、神様をまつところ」とある。

イ 本文九行目に「お寺は、仏様をまつところ」とある。

ウ 本文七行目に「鳥居は、神様がいる場所と、人間が住む場所を区別する役目を持っています」とある。

エ 本文最後の段落に「お寺には、ふつう山門があります。これも、鳥居と同じように、仏様がいる場所と人間が住む場所を区別しています」とある。

3 「これ」がさしている「もの」を「これ」より前からさがしてみると、二文前に「はじめは、お祭りのときに、神様におそなえする物をおく祭まつりさんを作っていました」とあるので、字数指定にあうように答えよう。

4 本文は「神社」と「お寺」の対比がポイントになっている。そこで「お寺には、ふつう山門があります」という一文にた文が、「神社」について書いているところはないかとさがすと、「神社の入り口には、たいいてい鳥居があります」という一文が見つかる。

5 ア 「形をかえてから日本につたわってきた」のではなく、「日本につたわってきてから形がかわった」のである。

イ 本文二行目に「手を合わせておがむところは同じ」とある。

③

1 A 「こしがぬける」は「びっくりして立ち上がる力がなくなる」という意味の慣用句である。

B 「目にもとまらぬ」は「動きのすばやい様子」を表す慣用句である。

2 「たまごどろぼうの名人」なのだから「カラスヘビ」が上手にたまごをとっていることがわかる部分をさがそう。直前の一文に「ちょっとしたすきをみては小鳥のすにしのびこんで、たまごをのんでしまうのです」とある。

3 ② 「カラスヘビ」は「おかあさんキジ」のいきおいにおどろいたわけだが、「とびた」ってにげることはできないので、エの「にげだしました」がいいだろう。

③ 「カラスヘビ」はにげおおせないとおもい、「おかあさんキジ」と対決しようと覚悟を決めたのだから、ウの「むきなおりました」になる。

4 「おそろしさのために体がちぢこまって動けなくなることを」「へびに見こまれたかえる」という。

5 「カラスヘビ」がどのような方法で「おかあさんキジ」をしめころしにかかっているのかをさがす。直前の段落に「カラスヘビのようにどくをもたないヘビは、あいてのからだにまきついてあいてをしめころしてしまうのが、そのやりかたなのです」とあるので、あとは指定された字数で答えればよい。

6 「⑥ いひも」は「カラスヘビ」をたとえた表現である。「ヘビ」＝「ひも」なので、「カラス」＝「□い」と考えればよい。